

2024年12月16日  
住友生命保険相互会社

## 森林ファンド「Manulife Forest Climate Fund」への投資について ～当社初のカーボンクレジットを創出する森林ファンドへの投資～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、米国を中心としたグローバルな地域の森林を投資対象とするインパクト投資ファンド「Manulife Forest Climate Fund」（以下「本ファンド」）に約38億円の投資を決定しました。住友生命として、初のカーボンクレジット<sup>※1</sup>を創出する森林ファンドへの投資となります。

※1 カーボンクレジットは、植林や森林保全等による温室効果ガス排出量の削減効果をクレジット化したもので、企業間等で売買することが可能です。

本ファンドは、森林投資で40年近くにわたる豊富な経験と実績を有し、業界最大規模の運用資産を誇る Manulife Investment Management Timberland and Agriculture Inc.（以下「同社」）によって運用されています。同社の知見を生かした適切な植林・間伐等の持続可能な森林管理を通じて、森林によるCO<sub>2</sub>吸収量、貯留量を増加させるとともに、高品質なカーボンクレジットを創出・売却し、運用収益と脱炭素社会実現への貢献との両立を図ることを主な目的としています。

なお、創出されたカーボンクレジットについては、ICVCM<sup>※2</sup>が策定する信頼性や透明性に係る厳格な基準に適合している国際的な認証機関から認証を取得する予定です。

※2 ICVCM (The Integrity Council for the Voluntary Carbon Market) は、カーボンクレジット市場の信頼性と透明性を確保するため、コア・カーボン原則 (Core Carbon Principles) 等の評価基準を策定しています。

住友生命は、本ファンドへの投資を通じ、運用収益の獲得に加え、森林によるCO<sub>2</sub>吸収量、貯留量の他、生物多様性保全や地域コミュニティの雇用創出といった環境や社会に対しポジティブなインパクトの創出が期待できることから、投資を決定しました。



©マニュライフインベストメント

## 【本ファンドの概要】

ファンド名	Manulife Forest Climate Fund
運用会社	Manulife Investment Management Timberland and Agriculture Inc.
当社投資額	約 38 億円

住友生命は、ウェルビーイングに貢献する『なくてはならない保険会社グループ』の実現に向けて、引き続き、資産運用を通じ、環境・社会へのポジティブなインパクトの創出に取組み、脱炭素および持続可能な社会の実現に貢献していきます。

## 【本件を通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】



以上